

研修 評価

研修名	臨床現場で活かせるフィジカルアセスメント（Ⅱ）急性期編				
領域	ニーズをとらえる力を高める研修	会場	看護研修センター ハイブリッド研修	受講料	会 員：3,080 円 非会員：6,160 円
対象	ラダーレベルⅠ～Ⅳ（急性期病院で働く看護職） 募集数(60人)応募数(89人)参加者数(76人) 会員数(74人)非会員数(2人)				
日時	令和 5 年 9 月 4 日（月曜日） 10:00 ～ 16:00				
ねらい （目標）	臨床で実践する機会が多い、フィジカルアセスメントの意義実技を学び、看護ケアに生かすことが出来る				
講師	高野菜穂子				
内容・方法	<p>○講義内容：・臨床で実践する機会が多いフィジカルアセスメントの意義実技を学び看護ケアに活かすことができる</p> <p>○研修方法： 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるフィジカルアセスメントとは ・呼吸器循環器系の構造と機能、正常と異常 ・問診、表情、徴候からのアセスメント ・身体機能別のフィジカルアセスメント ・フィジカルアセスメントに共通する技術 ・基本的なフィジカルイグザミネーション 				
結果・評価 （受講者の意見 感想含む）	<p>○評価方法：アンケート（回収率 46%）</p> <p>○自己課題の達成度：91.4%</p> <p>○受講者の満足度：91.4%</p> <p>○受講者の理解度：94.3%</p> <p>アンケートでは、「実際の呼吸音が聞けてとてもよかった」「改めて、バイタルサインの重要性、特に呼吸の観察の重要性を学んだ」「即時に臨床で活かせる内容ばかりで大変勉強になった」などの感想があった。</p> <p>講義に対しては、「資料の色、字の見にくいところがあった」「時間が足りなかったのが仕方ないが、質問したかった」「説明する際の言葉や略語で分かりにくいものがあったため年数が低くてもわかる言葉にしてほしい」という意見があった。</p>				
企画の評価	<p>○目標と内容</p> <p>研修のねらいと内容の整合性について、整合性があった：97.1%の結果から、研修の目標と内容は妥当であった。</p> <p>○プログラムの妥当性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師のリアルな経験や呼吸音・心音の視聴などを通して、参加者も実践を振り返り、すぐにでも現場で活かせる内容であった。アセスメントの重要性を改めて確認できる内容であった。 <p>○事前準備・当日の運営など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット視聴で呼吸音・心音の確認があった。PC の設定の問題で、インターネットの音声がかのスピーカーに流れず、設定変更手間取った。次年度は開始前にインターネットに接続できるか、動画の音声がかのスピーカーに流れるかの確認 				

	が必要。
課題	1. 具体的な症例でアセスメントするなどの演習もあるとよい。 2. 対象者をⅠ・ⅡとⅢ以上で分けるなども検討した方がよい。 3. アンケートの回収率が低いため、回収率を向上させるための工夫（研修終了時に強調して依頼する、など）が必要。
担当者	教育委員